

私たちが見つけた理想郷。

阿武隈山地が連なる静かな山里。木戸川をのぞむ山裾に古民家を移築し、自分の窯をもった陶芸家の志賀敏広さん・志津さんご夫婦を訪ねた。本当につくりたいものだけをつくる、豊かな時間が流れる生活。自然の移ろいと歩調を合わせる志賀さんご家族の暮らしに触れてみた。



特集 自然と暮らす。ある陶芸家一家の田舎暮らし訪問



福島県双葉郡の中西部、南北に走る阿武隈山地の懐に今回訪れた川内村はある。村の平均標高は

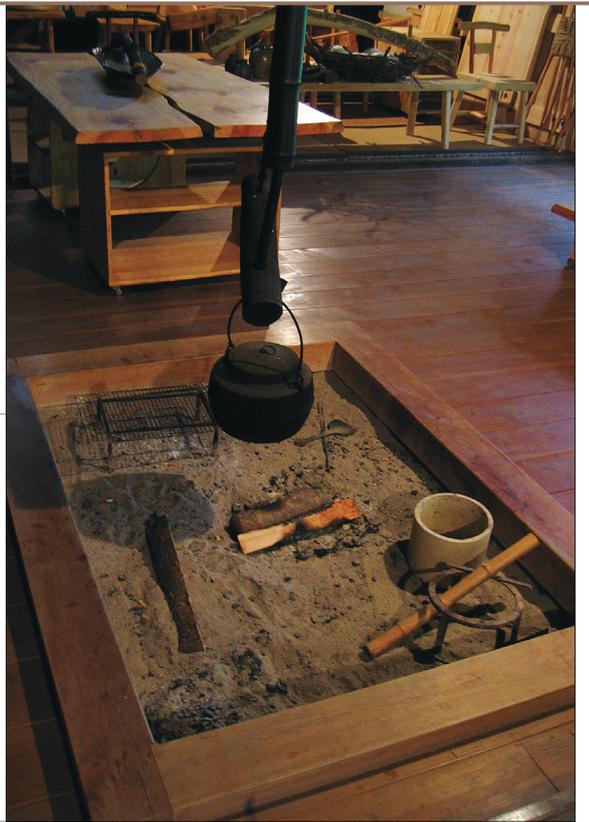
約456メートル、夏でも朝晩は冷え込み、霜が降りることも少なくない。村の大部分を豊かな森が占め、その森を源に多くの川は太平洋へと流れ落ちる。

この村一の川幅と水量を誇る木戸川に沿いながら国道399号線を南へと進む。山裾に集落が見えてきたら国道から脇道に入り、山の裏側へ向かう。雑木林を抜けると、そこに志賀敏広さん・志津さんご夫婦の工房「土志工房」があった。南側に木戸川が流れる東西に伸びた敷地には、住居や工房、窯が建ち並んでいた。私たちが訪れた時は生憎の雨だったが、その雨の中、作業場で木工作业に動んでいた敏広さんは、初めて訪れた私たちを快く迎え入れてくれた。

志賀さん一家が京都からこの村に越してきたのが13年前。敏広さんはそれまで京都府工芸美術展優秀賞受賞の他、現代工芸や日展に数多く入選してきた。志津さんも地道な活動を続けてきた。それが京都を離れ、創作の場を川内村に移したのは何故だろうか？ お二人とも出身は福島県浜通り。この村とは目と鼻の先だ。だが、陶芸をするために故郷に戻ってきたのではないという。

「京都の生活に嫌気がさしたわけではないんです」と敏広さんは言う。京都を離れる気持ちはなかったが、ただ漠然とした田舎暮らしに対する憧れだけがあったという。でもそれは季節限定のものであって、移住しようと思わなかったようだ。その固い心を揺り動かしたのは、友人の紹介による一軒の古民家との出会いだっただけだ。

自慢の家庭菜園の前に立つ志賀敏広さん(左)と志賀志津さんご夫妻。鬱蒼とした森を背景に、1反歩ぐらゐの広さに20種類以上の野菜が育つ。



一軒の古民家に導かれて。

その家は、里山の中にひっそりと建っていたという。

「磐越自動車道の建設に伴い、破壊されることになったんです。それをいわきにいる友達から教えてもらって、実際に見に行ったのがきっかけですね」。築180年、江戸時代末期に建てられたその古民家を見るなり、敏広さんの心は激しく動かされた。「この家をなんとかしたい。この家を再生させたい」という気持ちで一杯になったという。



「復元したいと思えるような古民家に出会わなかったら、今でも京都の競争社会の中で、必死にしがみついで生きていたのではないのでしょうか」。敏

広さんは笑って答えた。

志賀さん一家は、まず村中にある大正時代の古民家を借りた。

「この家がまたよかったですね。茅屋根も建具も昔のままの風情で残っていました。大家さんには好きなように手直ししていいと言われていたのですが、もったいなくて直すことなんてできませんでしたよ。でも、妻には不評でした。夏は板戸や地窓を開ければ風が通り抜けてとても涼しいのですが、冬は屋内でも外気温と変わらずマイナス5度〜10度は日常茶飯事でした」。田舎暮らしの厳しさを強烈に思い知らされた出来事だった。しかし、囲炉裏を囲みながら友人たちと酒を酌み交わしていると、話題はいつのまにか古民家再生の話になっていった。この家に暮らしながら、古民家の移築と自宅の新築を進めていった。

「古民家を再生することしか考えていませんでしたから、生活は大変でした。京都の生活に慣れきつていましたから、ここでの生活に慣れるまで2、3年はかかりました」と敏広さん。こうした苦勞を重ねながら移築した古民家は、志賀さん宅の東隣に当時



移築した古民家では毎年、様々なイベントが開催されている。昨年は、アメリカ人尺八奏者のブルースさんによるコンサートが行われた。

の部材・当時の造りをそのままに再生されている。今では同村内に別荘を持ち親しくお付き合いさせていたという山下元東京工業大学教授などお呼びして、音楽鑑賞会など様々なイベントが定期的に開催され、村民をはじめ県内から多くの人が訪れる交流の場となっている。

志賀さん宅の隣にあるギャラリーには、御飯茶碗や湯呑み茶碗、コーヒークップなど「碗」を中心にした敏広さんの素朴な味わいの作品と、花器や瓶を中心にした志津さんのダイナミックな作品が数多く並べられていた。これらは、ギャラリー隣の穴窯、ガス窯で焼かれたものだ。

「穴窯は、年に一度、火を入れます。10日間ひたすら焚き続けなければならぬので私と妻だけではとても手に負えません。だから、いつも友人や知人の助けを借りています」。窯焼きに使う薪はすべて村内の倒木や枯れ木を利用しこつこつと一年をかけて集めているという。

「ここでの生活で、創作のペースは京都時代に比べてかなり落ちました(笑)。でも、満足のいく作品が多くできるようになりましたね」。



ギャラリーには志賀さんご夫妻の趣深い作品が並ぶ。一年に一度、自分で造り上げた穴窯（右）に火を入れ、焼き上げる。寝ずの番は10日間ほど続く。

自然の恵みが 食卓に潤いを与える。

敷 地の東の外れ、志賀さん自慢の菜園を見せてもらう。「こちらに越してきて、初めて野菜をつくるようになりました」。豊かな自然と土を見ていたら家庭菜園を始め

たくなったのだという。一反歩くらいの広さにきゅうりやズッキーニ、ピーマン、トウモロコシ、枝豆、ししとう等々、20種類くらい野菜が育っていた。「一度でも穫れたての味を知ってしまうと、スーパーで売っている野菜が物足りなく感じます。熟す前に収



目の前を流れる木戸川に夏の週間だけある川床。風が川の水に冷やされ、とても涼しい。ここの食事はゲストにもたいへん好評である。(上) 時間があれば友人たちとカヌーで川遊びに興じる。夏の楽しみの一つである。(下)

すね」。菜園で穫れた野菜はもちろん、家の周りをグルッと一周してく

穫ってしまうからなんでしょうね」と言う敏広さんの顔は、まるでわが子の成長を喜ぶ父のようにいきいきとしていた。

「穫れたての新鮮でおいしい野菜があれば、牛肉とか海老とか高い食材に余計なお金を使わなくてもよくなるんです。以前は私もスーパーで山ほど買い込んでいました。でも、野菜が美味しいとそれ自体がメインディッシュになってくれて、お肉や魚は頑張っても副食にしかねないんです」と、志津さん。

「都会にいる友達が、都会にない自然や環境を求めてよく私たちの家を訪ねてきてくれます。そんな人たちはお寿司やすき焼きなどを出すより、掘りたての大根や穫りたてのきゅうりを出す方が喜んでくれます。

作物の自然の恵み。村の自然の恵み。草木染め。みずみずしさ。

す。そんな人たちはお寿司やすき焼きなどを出すより、掘りたての大根や穫りたてのきゅうりを出す方が喜んでくれます。

れば、タラの芽や山菜、きのこなど季節のものが穫れて、それが夜のごちそうとして食卓を飾るのだ。このことは家計はもちろん、生き方にもプラスに作用しているという。生活費が抑えられることで、あくせくと働くこともなく悠々自適の生活が出来るというのだ。

山の恵みはそれだけではない。志津さんは村の人と呼びかけて、一緒に周辺の草木を使って草木染めも行っている。これまでは、村の人たちにとつてススキやクス、アカネはどこにでも生えている雑草でしかなかった。しかし、今ではとつてもとりつくせない宝の山に変貌している。「よろしければ、召し上がっていきませんか」志津さんは私たちに今日穫れたばかりのきゅうりを出してくれた。なるほど、みずみずしく柔らかい。ほのかな甘みが口の中に広がる。

野菜づくりは志賀家にはすでになくてはならないものになっている。

自然と共に生きる この村での生活があるからこそ、 自分らしく生きられる。

私 たちのような自然を相手人間関係に弱いところがあります。ストレスを感じてしまうんですね。

人が多くなれば悪口も増える。そんな暮らしが駄目なんです。ここでの生活は、我々みたいな自由業の人間にはあっていいんですよ。志賀さんご夫婦が田舎暮らしを13年続けてきて、見つけた答えだ。

「ここで暮らしていると、今、流行りの『癒し系』ではないが、心が安まる生活ができるんです。でも、最初からここで暮らしていたのであれば、こんな感動はなかったと思います。ある期間、身近に自然のない『都会』という空間で生活していたからこそ感じることでしょね」。

今、男性向け雑誌で田舎暮らしや

隠れ家をテーマにするものが多くなつた。テレビ番組にも同じようなテーマのものが増え、確実に視聴率を稼いでいる。

「でもそれは、都会の生活によっぽど疲れを感じている証拠なんですよ。ね」と敏広さんは言う。「都会」と「田舎」、両方の暮らしを経験した人にしか言えない言葉だ。

敏広さんは今、川内村の将来について真剣に考えている。この村も他の村と同じように若者の流出が止まらず、過疎化が進んでいる。彼ら・彼女たちにとって「都会」は永遠の憧れの場所なのだ。敏広さんは、「逆都市化」が過疎化を防ぐ答えだと考えている。この村にある自然的である。また、これによってこの村の人たちにも恩恵が与えられる。都市の人間と村の人間が交流することで情報が共有でき、これまで何の変哲もない山が宝の山だつたということに気が付かされることだつた。自然と共生するには、自然を守ることはもちろん必要だが、自然を上手に生かす知識も重要なのだ。



ご自身の作品から村のことまで、幅広く語っていただいた志賀敏広さんと志津さん。ギャラリー「土志工房」内にて。

この村の人たちにも恩恵が与えられる。都市の人間と村の人間が交流することで情報が共有でき、これまで何の変哲もない山が宝の山だつたということに気が付かされることだつた。自然と共生するには、自然を守ることはもちろん必要だが、自然を上手に生かす知識も重要なのだ。

オンリーワンの家づくり。



NEWS 弊社・八光建設に国交大臣顕彰

弊社・八光建設は、国土交通省の建設産業の人材対策に関する大臣顕彰を受賞。26日には東京都で開催された「建設産業人材確保・育成推進協議会全国会議」の席上、表彰を受けました。この賞は、特色のある人材対策を通して、従業員の生産性の向上や福利厚生改善などの分野の構造改善に功績のあった企業を表彰しています。八光建設の地域に密着した人材の活用・育成が評価されたものです。

◎**アーク・ラボットからのご案内** 詳細につきましては下記ラボットまでお問い合わせください。

設計コンペ パネル展

- 期間 8月7日(土)~8月31日(火)
- 会場 ラボット



アーク・ラボットで分譲予定の並木3区画において、設計コンペを企画いたしました。ご応募いただいたプランを期間中「ラボット」にて展示いたします。学生の方から建築家の方まで、個性溢れるプランが揃いました。これから建築予定のお客様など参考にして見てはいかがでしょうか。ぜひご来場ください。

完成住宅見学会 (郡山市富田町)

- 期間 9月18日(土)~9月20日(月)
- 郡山市富田町において完成住宅見学会を開催いたします。今回ご案内する住宅は、お客様の趣味性を存分に生かし、まさに“オンリーワンの家づくり”を実現いたしました。ぜひ、こだわりの家づくりをご覧ください。

POINT

- ① 新ストーブを楽しむための家づくり
- ② 手づくり収納でオリジナルな家づくり
- ③ オール電化で安全快適な家づくり

マンションリフォーム 完成見学会 (郡山市栄町・並木 2カ所)

- 期間 9月18日(土)~9月20日(月)
- 郡山市栄町のマンション、郡山市並木のマンション、アパートの2カ所において内装リフォームをいたしました。9月18日~20日の3日間、見学会を開催いたします。快適な空間に生まれ変わった内装をぜひご覧ください。



第6回ふくしまユニバーサルデザインフェア 2004

- 期間 9月10日(金)~9月12日(日)
 - 会場 ビッグパレット(郡山市)
- ユニバーサルデザインフェアに今年も出展します。(写真は昨年の様子)



◎ ama terrasse 夏のパーティープラン新登場!

家族・親戚・友人達との会合や宴会にお得なプランをご利用ください。

料理: ¥2,800 4名様以上16名様

〈menu〉季節のグリーンサラダ、お手製春巻き、旬魚のカルパッチョ、麻婆豆腐、ザ・ホイコーロー、バリバリクリスマスチキン、ナシゴレンアーマ・スタイル、本日のデザート

●飲物: フリードリンク <¥1500/ビール、日本酒、焼酎、ソフトドリンク>
<¥2000/ビール、日本酒、焼酎、ワイン赤白、ハーブティーカクテル>



◎ ama style アーマ・スタイル OPEN

郡山中町、うすい通りにオープンした情報発信カフェ“アーマ・スタイル”ではレストランよりもカジュアルな空間が楽しめます。お買い物途中、ランチに、お仕事帰りにぜひご利用ください。

OPEN 12:00-CLOSE 20:00 ランチタイム/12:00-14:30 定休日/水曜日 PHONE/024-931-0151 住所/郡山市中町11-6



◎お問い合わせ、お申込みはすべてラボットにて承ります。お電話またはカウンターでお申込みください。なお、都合により日程の変更等ございますので、あらかじめご了承ください。

LABOTTO ラボット
〒963-8026 福島県郡山市並木 2-1-1
TEL.024-995-5855
http://www.labotto.com

【営業時間】10:00~19:00

ラボットは「住まうこと・楽しむ」を提案しています。新築・リフォームの設計・施工、インテリアやファブリック、ガレージにいたるまで、快適な暮らしのアイテムをたくさんご用意いたしました。



INFORMATION

展示

展示のご案内

版画家たちの企画展
版で発信する作家たち
9/16(木) ▶ 26(日)
ラボット 2F 多目的ホール

アートフラワー
田中ゆき子作品展
10/1(金) ▶ 5(火)
ラボット 2F 多目的ホール
ブリザードフラワー
アートフラワー・生花
ドライフラワー
アレンジメント作品展。
生徒作品も同時開催。

Event

イベントのご案内

Swedish Life

8/16(月) ▶ 8/31(火)
レストラン ama terrasse、ama style、ラボットの3店舗で期間限定のイベントを開催。食、音楽、インテリア3つの視点からスウェディッシュライフをお楽しみ下さい。



【アーマ・テラス、アーマ・スタイル】 クレフトール(ざりがに)祭り

福島海で獲れた魚介類と一緒に、北欧の夏の味「ざりがに」を山盛りで堪能できます。

【ラボット 多目的ホール2F】 The swedish design

スウェーデンデザイナーのイス・テーブル、リネン、食器、おもちゃ、テキスタイルなどシンプルで洗練されたデザインプロダクトをご紹介します。

【アーマ・テラス】 ケイコ・マクナマラ スウェディッシュジャズ チャリティーライブ

8/29(日) 18:00~
スウェーデン在住のジャズミュージシャン、ケイコ・マクナマラさんによるライブショー。ディナータイムのひとつにぜひお楽しみください。

◎お問い合わせ、お申込みはすべてラボットにて承ります。お電話またはカウンターでお申込みください。なお、都合により日程の変更等ございますので、あらかじめご了承ください。